

ふるさと歴史アラカルト

歴史をつなぐという仕事

今回は天明3(1783)年に作られた「暮沙汰帳」という史料から、富永瀬兵衛という人の話を紹介します。

この史料はいわゆる年末のボーナスに関する帳面で、藩士の業績や上司などからの推薦書が写されています。審査によって大半はボーナスの支給を見送られました。中には支給される者もあり、またごくわずかですが、昇給や昇格する事例もありました。富永瀬兵衛もその一人でした。

瀬兵衛は細工業を生業とする赤沼家の次男に生まれ、富永家の養子に入りました。しかし安永2(1773)年に養父が不正によってお家断絶と横山への出入り禁止の処分を受けてしまいました。その後瀬兵衛は富永家の名譽回復に努め、横山への出入り禁止処分を取り消す約束を取り付けましたが、約束の時を待たずに養父は亡くなり、瀬兵衛には富永家の相続も認められませんでした。

これをふびんに思った親戚筋の若林家は、彼の孝心に免じて富永家のお家

断絶処分も撤回し、瀬兵衛に富永家の相続を認めるように推薦しています。

瀬兵衛は御用所の人たちからも次のように推薦されています。「水変之節、御用所御旧記帳面数百冊水入に付て、

：大切之御記録数百冊分甲斐なしにて寔十方にくれ候へは、：悉く裏打等相調、：勤功無比類儀と存候」とあり、

洪水で水に浸かった数百冊もの帳面を一つ一つ修復した彼の仕事ぶりは並ぶものがないと高く評価されています。

大切な記録を後世に残すために瀬兵衛が大きく貢献したことが分かります。

結局2つの推薦を受けた瀬兵衛は、この年に相続が認められ、上級の士分に昇格しました。

当時を懸命に生きた人たちのこうした姿は、瀬兵衛が努めたように、史料を大切に修理・保存することで現在へ伝わっています。岩国徴古館ではこの役割を引き継ぐとともに、歴史を形作るこうした人たちのさまざまな姿を伝えることができるよう、今年も努めたと思います。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 現在の議会に相当する藩の役所。役所の記録を修復するため、瀬兵衛が派遣されていた

※2 紙の裏に紙を張って補強すること。綴じ目のあるものは全て外し、乾燥させてから1枚ずつ行った



▶天明3年の暮沙汰帳。作られてから200年以上が経過している

岩国市 人口・世帯

人口 136,866人 【前月比 - 115人】 男性 64,974人 女性 71,892人

世帯 66,046世帯 【前月比 - 22世帯】 ※外国人人口を含む (平成29年12月1日現在)

交通事故発生件数 11月分事故件数 43件(451件) 死者数 2人(8人) 傷者数 45人(524人)

※高速道路発生分を除く ※ () 内は平成29年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337